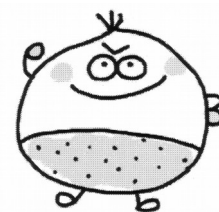


# HDM推進会（第 27回）／ごみゼロネット推進会（第 49回）議事録

開催日： 2012年（H24年）7月 11日（水）10:00～12:00

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 平林、加藤、大橋、杉本、川村、藤原、桐生（作成）



議題： 7月5日の行政とのHDM導入検討会の結論を踏まえて、今後どのように推進するかについての打合せ

## 1. 状況分析と今後の進め方について（全員）

- 20 kg級HDM実証実験の進め方の大筋は決まった。我々の本来の目標との隔絶は大きい。次のステップの話を性急にすると、今度の話が壊れてしまう恐れがある。佐野氏は行政側について発言しているが、代案を出さずにHDMを振り出しに戻そうとしている。一度、自分がじっくり、彼と話し合いたい。（平林）
- 行政は優秀だが、稲葉市長の意思を踏まえて、小型の処理機ならやるが、大型の処理装置はやらな我々は当面、20 kg級HDMに注力して、良い結果を出そう。（杉本、大橋）
- 市は12月までに一つの結論を出さなければならない。一部事務組合に入れられるかどうかだ。周辺住民がいなくて受け入れ可能は多摩衛生組合だけである。問題15000トンをどこまで減らして渡せるか。国分寺の2万トンはどこへ行くか。各自自治体が焼却炉の延命処置を始めるが、そのための広域支援はどうなる。分別収集の市議会での支持者は9名。分別収集が決まればHDMの道も開ける。行政の意を受けたダイナックスのレポートでできない言い訳になっている「高コスト」「場所がない」「市民の協力がいない」を一つ一つ潰したい（久喜は1.6万円/トン、来る3月には二枚橋更地化完了ほか、現在アンケート取れば市民90%が分別収集に賛成）。（加藤）
- 現在、小学校9校、中学校5校で生ごみ処理している。全て高木産業の乾燥型。底面250℃加熱、ご飯40%、野菜60%が理想条件、野菜だけだと煮えてしまう。1900KWhの電力を消費する。堆肥化委託業者は小中学校の給食なら無償で引き取るが、家庭用は異物存在の多寡により2～4万円になる。（加藤）
- 杉本氏の提案で、加藤氏を行政との窓口である副幹事に加えることに決定。会議案内等の事務的な作業は従来通り、杉本氏が行う。（全員）

## 2. 討議の中から見えてくる当会が想定する今後のシナリオ

- (1) 稲葉市長が代らない限り、生ごみの小金井市内処理は実現し得ない。
- (2) 市長が交代する時期に備えて、HDM処理施設の実行計画書を我々の手で作成しよう。
- (3) 議員と協力して、分別収集を早く実現させよう。当面の処理は堆肥化委託業者に依存する。
- (4) 我々の置かれた状況と意思を理解してもらうための議員たちへの報告会を8月中に実施しよう。
- (5) 一般市民にHDMを理解してもらうためのPR（スライドやビラ等）活動も進めよう。

以上

次回打合せ： 8月8日（水）10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ

